

小規模多機能型居宅介護が 可能とした取組み例 ①

⇒本人の望む暮らしの支援

- 一日に数度の通い、必要時の訪問、緊急時の泊まりなど必要な時間、必要な生活の支援が可能となる
在宅で施設の安心が確保される
- 拠点での泊まりより、必要なら自宅での泊まり支援

⇒在宅復帰のツール

- 退院可能になるも自宅での暮らしは不安
そこで、泊まりを1ヶ月継続する中で、家族とともに自宅で暮らす訓練。自宅に戻るときにはスタッフが泊まり込みで家族を補佐。無理なく安心して自宅復帰。
- 目の前の困難から、当面の泊まりの継続。
その期間中に自宅で暮らせるような支援体制を構築。
更に、当面泊まりの継続でも、地域の力で昼間は自宅で過ごす。

小規模多機能型居宅介護が 可能とした取組み例 ②

⇒地域資源の活用

- 運営推進会議での事例検討から、地域の皆さんの力で、利用者の地域での具体的支援が始まる。
- 拠点だけでの支え方だけでなく、利用者宅や公民館を利用したサロンなどを活用した地域生活が行われている。
そこを地域の仲間や虚弱な方がボランティアで助け合う



介護保険内のフォーマルサービスの貼り付け型ケアマネジメントから、地域密着のケアマネジメントへの転換を推し進めている

⇒自由さがあり、柔軟な支え方が可能な、制度を活用した支え方が始まろうとしている